

講演と交流会

脊柱靱帯骨化症

終了しました

日時 平成27年8月22日(土) 13:30~16:00
場所 サンシップとやま 福祉ホール
受講者 60名
講師 富山大学附属病院 整形外科
診療教授 川口 善治 先生



講演の概要

○脊柱靱帯骨化症とは

本来、靱帯であるものが骨になっていく。そのため神経の通り道が狭くなりいろいろな症状が出る。後縦靱帯骨化症、黄色靱帯骨化症、広範脊柱管狭窄症の3疾患をいう

○どんな症状がでるか？

- ・手足のしびれ
- ・手指の巧緻運動障害（箸が持てない、字が書けないなど）
- ・歩行障害（つまづく）
- ・膀胱直腸障害

○脊柱靱帯骨化症の原因は？

原因不明

後縦靱帯骨化症の原因として

- ①糖代謝（糖尿病の人が多い） ②カルシウム代謝 ③性ホルモン代謝 ④肥満 ⑤家族内発生（強い遺伝はないが体質的な遺伝） などが関係すると考えられている。

○脊柱靱帯骨化症の治療

保存療法

効果のある薬はない



川口先生への質問とコメント

Q1 手術はどんな時にするの？

歩行障害や巧緻運動障害がでたときに手術を考えるべき。痛みやしびれだけでは手術しない。フォローしていて症状が悪化したら手術をする。悪くなり過ぎると手術をしても良くならないので注意すべき。

Q2 ダメージを受けた神経は回復するか？

死んだ神経細胞はダメだがひん死の状態なら生き返らせる可能性はある。手術のタイミングを逃さないことが大事。

Q3 手術後の回復はどの位の期間をみればよいのか？

手術後1～5年間くらいかけて徐々に回復の見込みあり。

Q4 頸部骨化の手術を受けた。今後、他の部分も骨化するか不安。

頸部の手術をしても、次にどこの部分にできるか分からないので医師に術後の経過を定期的に診てもらふ必要がある。

Q5 手や足指のしびれ、内腿の痙攣がつらい。最近、脚と手を動かすためにジムに通っているがどうか？

ジムでの運動はとても良い。ウォーキング、水泳などの全身運動が良い。注意点としては運動をしすぎないこと、疲れすぎず、適度な疲労感で継続して行うことが大切である。